



2025年度 事業報告

Report Digest

【 2025. 4. 1 — 2026. 3. 31 】

2025年度 経営報告

Purpose 人々の豊かな生活、地域社会、そして日本を支える「福祉」
私達は「誇り」を持って、日本の福祉を「創造」し、「挑戦」します

1. はじめに

2025年度は、各施設・事業所において、ご利用者数の増加等により、経営改善を実現するとともに、幅広い職種・雇用形態の職員の待遇改善を図ることができました。質の高いサービスを継続して提供していくためには、現場を支える職員の待遇向上と職場環境の整備が不可欠です。今後も、ご利用者と同様に、職員にとってもあたたかい法人であり続けることを目指してまいります。

各施設においては、ご利用者がその人らしい暮らしを継続できるよう、専門性の高いチームケアを実践し、地域福祉を支える多機能拠点としての役割を担っています。また、通所・訪問・相談支援等の各事業においても、地域に暮らす高齢者や障がいのある方々の生活を支えています。こうした支援は、職員一人ひとりの献身的な努力によって成り立っており、深い感謝と誇りを感じています。

人材確保においては、特定技能制度による外国籍職員の採用やSNSを活用した採用活動が成果を上げ、安定した人材確保を実現しています。さらに、職員待遇や職場環境の改善、職員育成体制の再構築に取り組んだ結果、定着率が向上し、退職者の減少にもつながっています。

経営面では、賃金や物価の上昇、人材確保・定着に向けた投資等による支出は増加したものの、定着率の向上に伴う時間外勤務の削減や教育コストの適正化により、全体として人件費を抑制することができました。

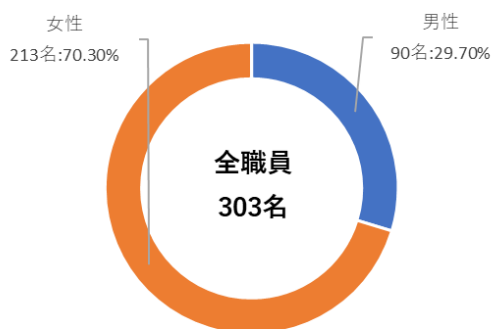
また、各種コストは増加傾向にある中でも、各施設・事業所の運営は概ね順調に推移し、職員待遇や職場環境の改善に加え、将来の施設修繕に向けた資金の積立も行うことができました。

社会福祉法人であっても、一つの企業としての視点が求められる時代です。2026年度においても、経営の安定と人材の確保・定着という課題に真摯に向き合い、持続可能な経営に取り組んでまいります。

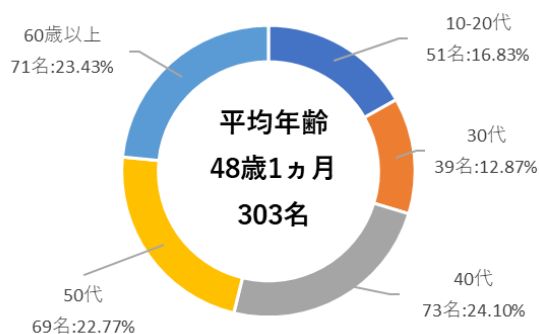
私たちが提供する福祉サービスは、ご利用者お一人おひとりの暮らしを支え、地域社会の安心につながる重要な役割を担っています。ご利用者はもちろん、職員もその人らしく豊かな日々を送ることができるよう、今後も着実に持続可能な法人経営を推進してまいります。

2. 法人基本データ

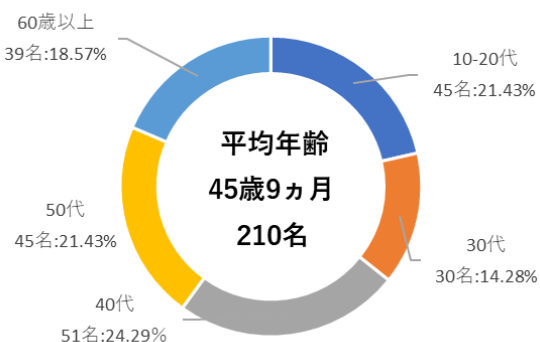
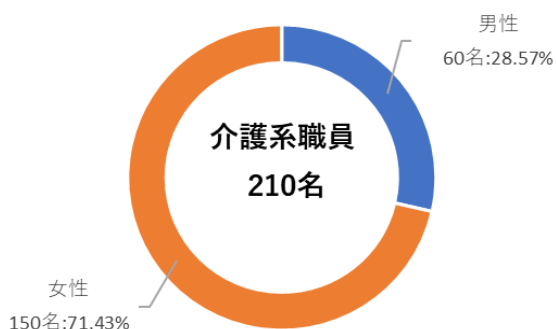
職員 男女比



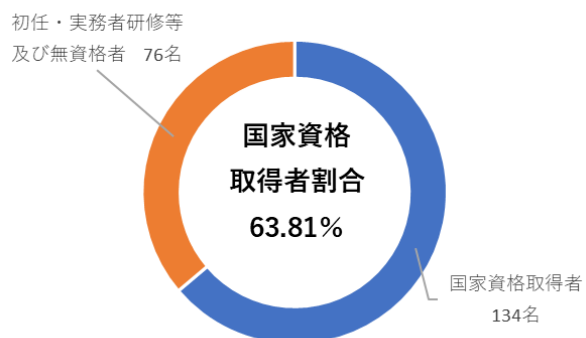
職員 年齢構成比



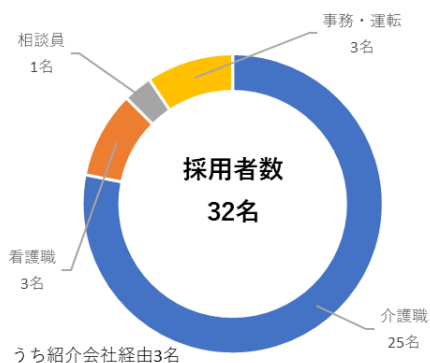
介護系職員



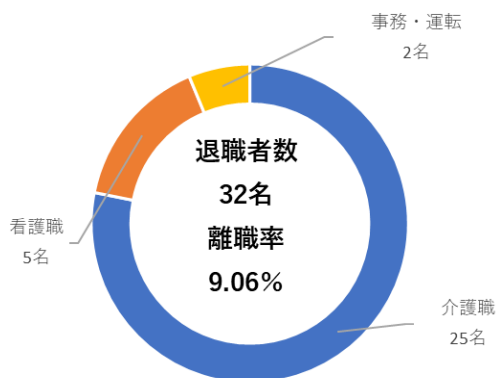
介護系職員 国家資格取得者数



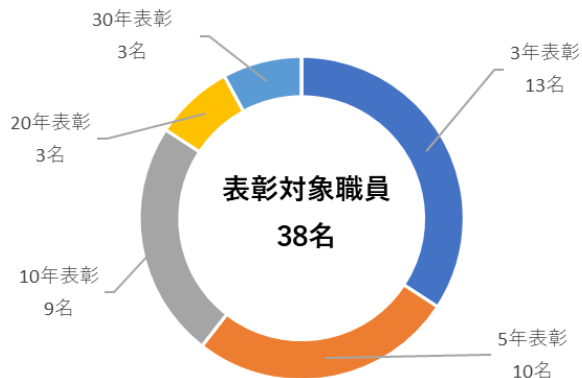
年間採用者数



年間退職者数



永年勤続表彰者



【平均勤続年数】 9年2ヵ月 (介護系職員:8年10ヵ月)

【障がい者の雇用率】 3.81% (9名雇用) ※法定雇用率2.50%

3. 2025年度 経営方針（中期経営方針2025-2027年度）に対する成果と課題

(1) 誰もが、その人らしく暮らすことができることを願い、行動します

私たちは、「その人らしい暮らし」を大切にできるケア、在宅復帰を可能とする科学的根拠に基づくケア、ターミナル期に寄り添うケアの実践に取り組んでいます。特別養護老人ホーム和幸園と障がい者支援施設グリーンハイムの運営を通じて、ご利用者一人ひとりの個別性を尊重した支援を積み重ねてきました。また、高齢者・障がいのある方・子ども等、すべての人がその人らしい生活を継続できるよう、多様性を重視した在宅福祉サービス（通所・短期入所・訪問介護）や相談支援事業（居宅介護支援・相談支援・介護予防）を展開しています。

地域福祉の拠点としての役割を担う社会福祉法人として、地域貢献活動の実施、福祉現場からの研究発表や公開研修会の開催に取り組むとともに、地域住民や各種団体、他産業との連携を深めながら、誰もが安心して暮らすことのできる地域づくりを推進していきます。

- ◆ 特別養護老人ホーム和幸園では、「自立支援介護（日中おむつゼロ）」の実践に取り組むとともに、ケアの効果測定及び実践事例の研究発表を行いました。その成果が評価され、北海道老人福祉施設研究会において優秀賞を受賞しました。
- ◆ 札幌市障がい者相談支援事業の受託や緊急ショートステイの受け入れを行うとともに、札幌市障がい福祉計画の推進に係る各種協議会に参画し、地域福祉の拠点としての役割を果たしています。
- ◆ 地域貢献事業として、地域の高齢者や障がいのある方の外出を支援する「いしやま朝市送迎バス」の運行、認知症の高齢者を介護するご家族を対象とした「認知症状改善塾」を継続しています。また、北海道身体障害者福祉施設協議会主催「fuku link expo 2025（介護のしごと魅力アップ推進事業補助金）」の主管法人として、イベントの企画・運営を担いました。さらに、札幌市主催「さっぽろシゴト博」への出展を行う等、福祉人材の確保に向けた取り組みを推進しました。加えて、災害時における地域福祉の拠点として、関係機関との連携強化や地域社会への情報発信・情報共有にも取り組みました。

【課題】

- ◆ より多くの方に選ばれるサービスとケアを実践するとともに、各施設・事業所のブランディング（付加価値）を確立します。あわせて、SNS等を活用し、情報発信力の強化を図ります。
- ◆ 当法人が、高齢者及び障がいをお持ちの方にとっての地域福祉拠点（災害時含め）となることを目指し、地域ニーズ・課題解決に向けた地域活動に取り組みます。

(2) 職員が、専門職、組織の一員として、成長できる環境創りを目指し、行動します

社会全体で人材の流動化が加速する中、介護・福祉業界における人材流出は喫緊の課題となっています。こうした状況を踏まえ、当法人では特定技能制度を活用した外国籍職員の採用に着手し、現在17名の職員が活躍しています。2026年度には、新たに3名の方の入職が予定されています。また、多様な働き方への対応や各種加算・補助金を活用した待遇改善、SNSを活用した採用活動により、採用活動の促進と採用のミスマッチ防止に取り組まれました。あわせて、職員面談や育成面談の実施により、離職率は低下傾向となっています。さらに、法人独自の介護福祉士資格取得支援制度により、本年度は受験者8名全員が合格する成果を上げることができました。

- ◆ 特定技能制度による職員採用を通じて、優秀な人材を多数採用することができました。また、外国籍職員の育成を行うことで、育成担当職員の成長と育成方法の再検討を行う機会となっています。

- ◆ キャリアアップの機会の提供として、法人内実務者研修教室の開校及び給付型奨学金制度の導入、介護福祉士国家資格勉強会の開催等、介護福祉士国家資格取得支援の拡充に取り組みました。
- ◆ 処遇改善加算、補助金を活用し、介護・生活支援員の他、処遇改善手当対象外の職種に対する待遇改善を図るとともに、定年後の再雇用職員への待遇改善等、社会情勢に合わせた公平性の高い各種規程の改正を実施しました。
- ◆ 特別養護老人ホーム和幸園では、補助金を活用した機械浴槽の導入により、ご利用者の満足度向上とともに業務負担軽減に取り組みました。障がい者支援施設グリーンハイムでは、Wi-Fi インカムシステムの拡大により、職員間コミュニケーションの促進と業務負担軽減に効果がみられています。その他、リハビリ機器、見守りセンサー付ベッドや自動体位変換マットレス、移乗機器等を各施設で導入し、ご利用者の安全確保と業務負担軽減に取り組んでいます。

【課題】

- ◆ 法人の方針や事業内容を理解した職員の採用を促進するため、SNS や法人ホームページ、Indeed 等を活用した採用を進めるとともに、採用チャネル・ツールの強化に取り組みます。
- ◆ 専門職研修、キャリアアップ研修を実施するとともに、役職者向けのコミュニケーション・労務マネジメント等の研修を行い、職員の定着率の向上に取り組みます。
- ◆ ICT システムと介護ロボット、介護機器等の導入により業務負担の軽減を図るとともに、職場環境の改善のための設備投資を行います。

(3) 持続可能な経営・組織基盤の確立のため、行動します

安定した経営基盤の確立に向け、コンプライアンス及び透明性の高い経営を基礎とし、経営実績や財務状況に関する明確な目標を設定したうえで、各施設・事業所の経営改善に取り組みました。各施設・事業所において、ご利用者数の増加及び業務改善等による人員配置の調整を推進することにより、経営改善を実現するとともに、幅広い職種・雇用形態の職員の待遇改善にもつなげることができました。

事業活動収入（売上高）は、1,724,846千円（前年度比76,925千円増収）、事業活動支出は、1,557,727千円となり、前年度に実施した人材確保及び育成への先行投資の効果により、職員の定着と育成が進み、適正な人員配置と時間外勤務の削減（27.6%減少）等により人件費を抑制することができました。加えて、物価高騰への対応として各種契約内容の見直しを行い、事務費・事業費支出は予算の範囲内となりました。その他、設備資金借入金償還支出39,672千円、固定資産取得支出8,863千円、ファイナンスリース債務の返済支出5,638千円、積立資産支出42,903千円（うち修繕費積立支出20,000千円）、当期資金収支差額は72,596千円、当期活動増減差額は60,836千円（うち減価償却費118,227千円、国庫補助金等積立金取崩額32,507千円）となり、健全な経営を継続することができました。

- ◆ 各施設・事業所において、利用稼働率の向上及び適正な人件費管理を推進した結果、経営改善を図ることができました。
- ◆ 社会福祉法等の関係法令に基づき、理事会・評議員会を開催し、予算、事業計画、決算、事業報告、各種規程の改正等、法人及び事業所の経営に関する重要事項について適正に決議しました。
- ◆ 情報公開（定款、各種規程、事業計画、予算、事業報告、決算、介護職員処遇改善計画等）及びアカウントビリティ（説明責任）の強化に向け、内部では法人内ネットワークシステムを活用し職員との情報共有を推進しました。また、SNS を活用した情報発信に取り組みました。

- ◆ 業務効率化及び職員の業務負担軽減を目的として、ICT 機器や介護ロボット・介護機器の導入等の設備投資を行いました。

【課題】

- ◆ 各施設では、入院者の増加に対し、協力医療機関との連携体制の再構築及びベッドコントロールの精度向上を図り、経営の安定化に継続して取り組みます。
- ◆ 経営資源の一つである SNS（Instagram、YouTube、LINE 等）を効果的に活用し、認知度と信頼性の向上を図ることで、地域から選ばれ続ける施設・事業所を目指します。
- ◆ 通所事業及び地域事業については、適正な人員配置の見直しと業務の整理・効率化、ICT の活用により、中・長期的な視点に立った経営体制の構築に取り組みます。
- ◆ 各施設の修繕・改修に加え、ICT 機器や介護ロボット等の導入による業務効率化と職員の業務負担軽減を進めるとともに、ご利用者・職員双方にとって快適な環境整備を推進します。あわせて、バックオフィス業務への AI 導入及び効果的なアウトソーシングの活用にも取り組みます。

4. 財務情報

(1) ハイライト

- ・法人主要事業である障がい者支援施設グリーンハイム及び特別養護老人ホーム和幸園の経営安定化により法人全体で大幅な経営改善を図ることができました。また、和幸園デイサービスセンター、生活介護事業所グリーンハイム、和幸園指定居宅介護支援事業所、和幸園・グリーンハイムホームヘルプサービス事業所についても、いずれも堅調な経営を継続することができました。
- ・和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森は、1年で大幅な経営改善が進んでおり、次年度におけるさらなる成長が期待できます。
- ・自立訓練型デイサービスセンターあうるの森は、法人各事業へつながる新たなご利用者の確保に貢献しており、法人全体の活性化につながっています。
- ・介護予防センター石山・芸術の森、相談支援事業所グリーンハイム、和幸園居宅介護支援事業所は、公益事業を主としているため、収益性の観点では評価が難しい事業所ではありますが、地域貢献を通じた法人の認知度向上や法人内各施設・事業所の活性化につながる重要な役割を担っています。
- ・物価高騰への対応、介護負担軽減機器の導入、人材確保・育成に係る経費、社会福祉法人減免等に係る各種補助金の申請を行い、総額26,945千円を超える補助金の交付を受けることができました。

(2) 決算データ

単位：千円

	勘定科目	決算額
サ ー ビ ス 活 動 増 減	介護保険収入	973,086
	障害福祉サービス等事業収入	709,872
	その他の事業収入（保育園運営助成金等）	31,593
	経常経費寄付金収入	1,729
	受取利息配当金収入	2
	その他収入（雑収益）	8,564
	事業活動収入計	1,724,847
	人件費支出	1,091,280
	事業費支出	240,096
	事務費支出	210,561
	利用者負担軽減額	9,646
	支払利息支出	6,144
	徴収不能利用料資金減少額	1
	事業活動支出計	1,557,728
事業活動資金収支差額	167,119	
活 動 外 増 減	施設整備等補助金収入等	2,531
	施設整備等収入計	2,531
	設備資金借入金元金償還支出	39,672
	固定資産取得支出	8,863
	ファイナンスリース債務返済支出	5,639
	施設整備等支出計	54,174
	施設整備等資金収支差額	-51,643
特 別 増 減	積立資産取崩収入等	-
	拠点・サービス区分間繰入金収入	12,000
	その他の活動による収入	70
	その他の活動収入計	12,070
	積立資産支出等	42,904
	拠点・サービス区分間繰入金支出	12,000
	その他の活動による支出	46
	その他の活動支出計	54,950
その他の活動資金収支差額	-42,880	
当期資金収支差額		72,596

- | | | | |
|--------------|--------------------------|------------|-----------------------------------|
| ● 事業活動資金収支差額 | 167,119千円 | ● 当期資金収支差額 | 72,596千円 |
| ● 人件費比率 | 63.27% | ● 現金預金残高 | 611,402千円 |
| ● 各種積立金 | 145,970千円
(20,000千円増) | ● 固定資産 | 1,512,280千円
(減価償却費118,277千円/年) |
| ● 借入金残高 | 433,605千円 | ● リース債務 | 17,199千円 |
| グリーンハイム | 47,905千円 | | |
| 和幸園 | 385,700千円 | | |
| ● 純資産総額 | 2,031,836千円 | | |